



去る6月に寄託された佐藤安弘氏所蔵文書（1,200点）の中から「村絵図」の部分

# 開港のひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

- 編集・発行／横浜市総務局横浜開港資料館  
横浜市中区日本大通3丁231  
電話（045）201-2100 企画室内
- 発行日／昭和58年9月20日
- 印刷／（有）三信印刷所

## 収蔵資料の紹介

### 民衆の生活を彩る地方文書

資料館では開国・開港に関する内外の資料を中心として、横浜の近代代の資料も併せて収集しています。本誌ではその内容等を紹介します。

#### ●地方文書とは

戦後の地方史編さんは全国津々浦々にいたるまで実施され、かつて経験しえなかつた数々の成果を

収めています。その成果のひとつは、数百年来旧家の土蔵等に眠っていたおびただしい数の古文書が

戦後的新しい空気に触れ、過去の多くの人びとの生活に光があたられ、よみがえろうとしていること

です。地方文書、いわゆる一般に郷土史資料と呼ばれる古文書はこ

のような戦後の地方史編さんの過程で「史料」として確定されてき

ました。そして、本腰を入れ保存され始めたのは最近のことです。

ひとくちに地方文書といつても

さまざまに解釈できますが、一般的に市内の旧家等に所蔵されている古文書や古書、古新聞、古写

江戸期から明治・大正期にかけての古文書や古書、古新聞、古写

してさしつかえありません。本市では市史編さんによる収集と最近の基礎的な資料所在調査の結果、

約二百件（軒）、八万余点の所在数が確認されています。関東大震災と空襲で多くの資料が失われまし

たが、それでも今日残っている資料は貴重な、そして厖大な情報量

といえます。

●資料館と地方文書

過去の人びとの生活は年貢皆済（かいさい）状とか奉公人請状ある

いは人別送り状とという形で表現されています。この紙一枚がその時代の人間の生死を左右することがしばしばあつたことから、その扱いが慎重でなければならないのは

言うまでもありません。また文書

それ自体の扱いとあわせ、都市開

発と世代の交替などによって資料

が散逸するのを防止する必要があ

ります。資料館は所在調査の過程

で、所蔵者の御協力を得て寄贈・

寄託を受けておりますが、現在ま

で寄贈が七件・約四千七百点ありま

す。すべて資料館収蔵庫に納入し、

二十四時間空調の環境のもとで保

存を行うとともに、年一回の完全

くん蒸を実施し、防虫策を講じて

います。

#### 秋季特別講演会のお知らせ

青木雨彦「私の横浜」

木下順二「日本の近代」

十一月二十六日(土)午後一時半から・教育文化センター・ホール

また、寄贈・寄託以外の間接的

保存策としてマイクロフィルムによる記録化とともにそれを写真版

に引伸し、製本化をすすめています。現在まで二三件・約三万八千点の撮影が行われています。

この貴重な資料は既述したよう

に保存を第一と考え、なお資料館での活用を考えさせていただいている

ます。第一に古文書解説講座での活用です。毎年六十名程度の受講者が古文書の解説をめざし、隔週土曜日ごとに講師及び職員の指導に基づいて学習を行っています。江戸時代の年貢高を決定する調査台帳ともいうべき検地帳に取り組んだり、明治政府から出された布達の解説を進めながら近代化のすすむ過程に具体的に触れたり、といった講座です。また本年一月三日から十二日までユーリンファボリで『江戸時代の横浜』展を実施しました。来春には古文書をとおして人びとの暮らしを描く展示を予定しています。

開館して三年経とうとしていますが、これから取り組みこそが真価の問われるところと考えておられます。

# 館長対談

## 宮本政幸氏を迎えて

今回の対談は、開港資料館に生徒を引率して来られた経験をお持ちの宮本政幸先生（鶴見区・市場小学校）と長沢和子先生（神奈川区・神奈川中学校）をゲストにお迎えし、先生と生徒の立場から、ご感想やご意見、ご要望など率直にうかがうことにしました。

館長 まずいつ頃、何年生を、どういう理由で引率して来られたか

お聞かせください。

宮本 今年の五月に四年生の遠足で来ました。ヘボン展開催中です。

長沢 中三の社会科の行事で、五

十六年六月に資料館がオープンするのを待つて来ました。ペリー展

のときで、授業もちょうどペリー

長沢 来航のところでした。

館長 ここで見学の時間はどれ位お使いになりましたか。

宮本 四十程度です。

長沢 一時間位ですが、一クラス

ずつ四日間参りました。

館長 生徒さんはどのような反応を示されましたか。また先生方はどのような印象を持たれたでしょうか。

宮本 めずらしい物が沢山ある、

生徒はそれを見て単純な驚きとい

うのが殆んどで、それ以上疑問が

でても教師の方で深く説明できま

る位置づけがなかったため、驚きはあったのですが、そういう意味での成果はもう一つあがらなかつたようです。指導計画が不十分でもあつたと思います。

館長 中学校の社会科でも地域の歴史を勉強する時間はあるのです

が、利用する側の工夫も必要

ます。しかし、利用する側の工夫も必要

なところまではとても手が届きません。お互に限界があると思いますが、利用する側の工夫も必要

なところまではとても手が届きません。お互いに限界があると思いますが、利用する側の工夫も必要

う位置づけがなかったため、驚きはあったのですが、そういう意味での成果はもう一つあがらなかつたようです。指導計画が不十分でもあつたと思います。

館長 発展したことや生徒関係で横浜線が利用された話には興味を持

っています。

長沢 歴史の時間には通史をやりますので、郷土史をとり入れるの

は難しい状況です。横浜が一漁村から発展したことや生徒関係で横

浜線が利用された話には興味を持

ています。

館長 例えば、小学校三・四年生

が鶴見区の歴史にとりかかる方法はどうですか。

宮本 まず、一里塚とかお寺、神

社、農作業に使った道具などの古い物に目を向けさせ、これは何だ

うかという疑問を持たせること

から始め、古い人たちに聞いて取材するという方法です。

館長 生徒の居住地域の歴史が横

浜市全体の歴史の中でのよう

に位置づけられるのか、日本全体の

歴史の流れの中でどう関連するの

か考えてやらざるを得ないとと思う

のですが、本館の展示の中に何かそのための手掛りはあったでしょうか。

長沢 一階と二階の展示の仕方が随分違うと思います。一階の世界史的考察と二階の横浜の街の発展とがイメージとしてつながってい

きます。例えば、五カ国条約や

か吉田勘兵衛など土地の発展に從事した人をとり上げていただけた

らと思います。

宮本 人物ですと、浅野総一郎と

も、もつと開港当時の世界史の中の大きな出来事を扱った方が良い

と思います。

長沢 開港資料館という名稱から

も、もつと開港当時の世界史の中の大きな出来事を扱った方が良い

と思います。

宮本 展示そのものもかなり詳

細く見ていました。

(去る七月二十八日の対談です)

示したら中学生でも解りますし、子供のイメージをふくらませる配慮をしていただけたらと思います。

宮本 映像と音声による説明もとり入れていただけたらありがたいのですが。

事務局 毎年展示を中心とした映画を作成しておりまして、閲覧室のビデオディスクでいつでもご覧になれるほか、ご要望があれば、講堂（百人収容）でご覧いただい

ています。

館長 学校側のご希望があれば館員が説明しますし、子供向けの説明も今後考えていただきたいと思つて

いますので、できるだけ学校教育で利用していただけたらと思いま

す。最後にこんな展示をやって欲しいというものがありましたら：

館長 お申しつけください。

宮本 例えは、小学校三・四年生

が鶴見区の歴史にとりかかる方法はどうですか。

長沢 まず、一里塚とかお寺、神

社、農作業に使った道具などの古

い物に目を向けさせ、これは何だ

うかという疑問を持たせること

から始め、古い人たちに聞いて取

材するという方法です。

館長 生徒の居住地域の歴史が横

浜市全体の歴史の中でのよう

に位置づけられるのか、日本全体の

歴史の流れの中でどう関連するの

か考えてやらざるを得ないとと思う

のですが、本館の展示の中に何か

そのための手掛りはあったでしょうか。

長沢 一階と二階の展示の仕方が随分違うと思います。一階の世界

史的考察と二階の横浜の街の発展

とがイメージとしてつながってい

きます。例えば、五カ国条約や

か吉田勘兵衛など土地の発展に從事した人をとり上げていただけた

らと思います。

宮本 人物ですと、浅野総一郎と

も、もつと開港当時の世界史の中の大きな出来事を扱った方が良い

と思います。

長沢 開港資料館という名稱から

も、もつと開港当時の世界史の中の大きな出来事を扱った方が良い

と思います。

宮本 人物ですと、浅野総一郎と

も、もつと開港当時の世界史の中の大きな出来事を扱った方が良い

と思います。

橫濱人物小誌

鈴木真一

●文明開化期の写真家●

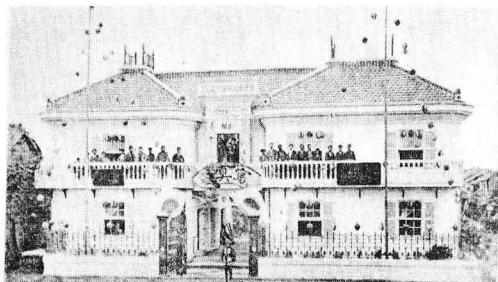
初代真一は天保六(一八三五)年四月伊豆国加茂郡岩科村字岩地

初代真一は天保六（一八三五）年四月伊豆国加茂郡岩科村字岩地に、高橋文左衛門の三男として生まれた。幼名を勇次郎という。安政元（一八五四年）下田の鈴木与七の婿養子となつたが、この年下田を襲つた太海嘯にあつて財産を失い、しばらくして開港後の横浜に出てきた。蚕紙の仲買に従事していた。同郷のよしみもあつてか、慶応二（一八六六年）年営業写真の創始者下岡蓮杖の門人となつて写真の修業に励んだ。明治六年（一八七三年）真一と改名して独立し、弁天通六丁目一二番地に店を開いた。この年には蓮杖門下の

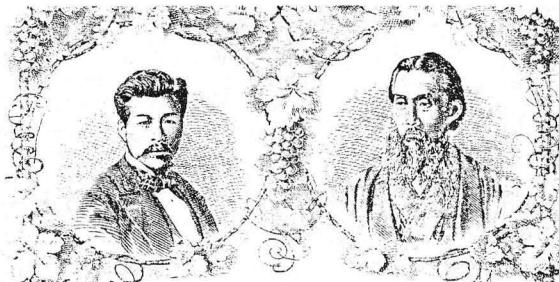
後碧岡本圭三を婿養子としているが、これがのちの二代真一である（圭三は安政六年上州勢多郡下洲村の生まれ、慶応三年來浜して蓮杖の門に入った）。明治十七年には真砂町一丁目一番地の公園前に洋風二階建の写真館を新築して移転

した。内外人の肖像写真の撮影  
日本の名所風俗の着色写真の販売  
のほか、陶磁器への写真焼付に成  
功して新機軸を出した。他方吉三

〔鈴木眞〕については語り伝わるもの多く、その中で、努力して原資料にあたり正確を期した。末尾ながら、協力いただいた鈴木信治・高橋文左衛門・



鈴木真一の写真館（真砂町）



右初代、左二代（ヘボン夫妻の金婚式記念写真の台紙裏）

甲阪賢の各氏に感謝いたします。)

開かれた資料館

のところ心もとな  
員関係者はさまざ  
まなつてを求めて

展示を仕上げ、開館へとこぎつけた。今考えてもみごとな放れわざである。ついで講座や研究会も発足し、最近はガイド・ブックや資料目録の刊行も軌道にのつた。

はほとんどないらしいし、市会速記録、市報、それに有数の地方紙だった横浜貿易新報にも欠号が目立つ。市内・県内の図書館、市の各局、国の機関などにても協力をもとめて、基本史料の蒐めあつた。

展示を仕上げ、開館へとこぎつ  
けた。今考えてもみごとな放れ  
わざである。ついで講座や研究  
会も発足し、最近はガイド・ブ  
ックや資料目録の刊行も軌道に  
のった。

こうした内外各地の資料館等  
とのつながりは、開港資料館に  
とつてはとくに重要である。そ  
れは、貿易港としていわば日本  
の門であつた横浜の性格にもと  
づいている。今後ともこうした  
ことが必要であろう。

方紙だつた横浜貿易新報にも欠  
号が目立つ。市内・県内の図書  
館、市の各局、国の機関などに  
も協力をとめて、基本史料の  
穴うめや整備をおこなつてほし  
い。地味な仕事だが、市民サー  
ビスの基礎づくりである。将来  
に向けての文書館づくりにも、  
機を失しないうちにとりかかる

行政資料等の充実

(横浜市立大学教授 今井清一)  
元横浜開港資料館設立研究委員

黒船館をたずねるというふうに



本展示は、鎖国から開国期における日本人が作った多様な地図をとおして、日本人が日本及び世界をどのようにとらえていたのかをみてみようとしたものです。鎖国期においては幕府の国絵図はじめ民間で利用された名所図会や



道中絵図、それに石川流宣や長久保赤水に代表される日本図や世界図が流布していましたが、一八世纪にはいると中国及びオランダから輸入された書物等から新しい知識をもとに地図の改良がはかられ、正確な地図の作成がみられるようになりました。

伊能忠敬による伊能図はこうした過程での結晶物であり、開国・開港期はもとより明治期にかけて内外ともに大きな影響をもたらしました。シーボルト事件はそのひとつ

## 「日本人と地図」展から (8/2 ~ 10/12)

です。幕府の天文方役人である高橋景保が来日していたオランダ商館医のドイツ人シャーポルトとの間で伊能図等と引きかえに、ロシア人の著した『世界周航記』を入手し

たと同時に国と国との交流の上で

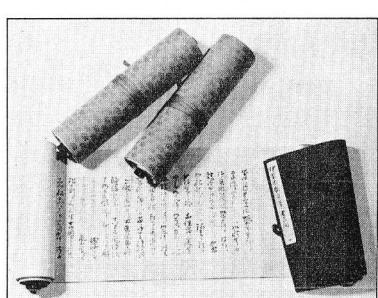
ことからばかりしない影響をもちました。つまり軍事・貿易上の重要な資料になつたわけです。伊能図の正確さが世界的に証明され

たと同時に国と国との交流の上でいかに大きな意味を持つていたかを示しました。本展

示のもうひとつ見どころは鎖国体制の中といえども、日本図や世界図がさまざまなもので装飾的に描かれています。一般の人びとのくらしの中にどの程度浸透していたかどうかは不詳ながら

ようとした事件でした。シーボルトは幕府の眼を盗み、潜かに伊能図を写し本国へ持ち帰つて著書『日本』の扉に採用しました。この本はペリーをはじめ日本を訪れる人々にとつては必読書であった

ことからばかりしない影響をもちました。つまり軍事・貿易上の重要な資料になつたわけです。伊能図の正確さが世界的に証明され



伊能忠敬の書簡

### 行事開催予定(九月~十二月)

#### ▼展示

『日本人と地図(鎖国から開国へ)』展を開催中(十月十日まで)。十月十二日からは、横浜市立大学所蔵『鮎沢地図コレクション』展を開催予定(十月三十日まで)。十一月二日からは、当資料

### 行事開催結果(五月~八月)

#### ▼講演会

『日本人と地図』展開催記念講演会を十月九日(日)午後一時三十分~四時三十分当館講堂で開催。講師西山松之助・東教大名誉教授、演題「江戸の庶民文化」

当日は、映画「南蛮文化の伝来と受容」「鎖国の世の中」を上映。先着百名。受講料三百五十円。

大正期(十月~十二月) 小林重敬・横浜国大助教授「近代的都市計画法の創設と横浜のまちづくり」(10/15・22) 山田操・神大教授「横浜の都市形成と市民」(10/29・11/5) 杉山和雄・成蹊大教授「市中銀行の動搖と発展」(11/12・19) 二野瓶徳夫・国立国会図書館専門

### 行事開催結果(五月~八月)

#### ▼展示

『ヘボンと横浜』展(四月二十七日~七月三十一日)

### 行事開催結果(五月~八月)

#### ▼講演会

(1)春季特別講演会・野坂昭如氏(作家)「神戸と横浜」木村尚三郎氏(東大教授)「これから時代、これからの横浜」(六月十日まで)。十一月二日からは、当資料

### 行事開催結果(五月~八月)

#### ▼展示

『ヘボンと横浜』展(四月二十七日~七月三十一日)

### 行事開催結果(五月~八月)

#### ▼講演会

(1)春夏季別講演会・野坂昭如氏(作家)「神戸と横浜」木村尚三郎氏(東大教授)「これから時代、これからの横浜」(六月十日まで)。十一月二日からは、当資料

本号では読みやすいように構成を多少変更してみました。第一面の館収蔵資料の紹介及び第二面の館長対談は従来どおりとし、他に本号から、館員執筆による「横浜人物小説」を取りあげてみることとしました。一般にあまり知られていない人物の登場を主眼とするもので、今後どのような人物が登場するかご期待ください。また読者の方からとりあげて欲しい人物がありましたら企画室へご一報をお寄せください。



も、日本人の日本及び世界に対する旺盛な関心の一端をあらわしているのではないでしょうか。